

風鈴の如く ～強く、そしてしなやかに～

道元禅師が師として仰がれた如浄禅師の「風鈴の偈」という教えがあります。

渾身似口虚空掛（こんしん 口に似て こくうにかかれり）
不問東西南北風（東西南北の風を問わず）
一等為他談般若（一等に他がために般若を談ず）
滴丁東了滴丁東（チチンツン リャン チチンツン）

解釈は、「何も妨げるものがない空間にかかっている風鈴は、全身そのものが口そのもので、東西南北の風の別を問うこともなく、すべての風を一様に平等に口全体で受け入れ、チリンチリンと真実を鳴らしつくす。」ということです。

組織労働者の一人として、組織の姿勢に置き換えてみます。

風鈴は「私」「私たち」、個人であり組織と捉え、東西南北から吹く風は、ある時は「相手からの厳しく強い向かい風」であったり、ある時は「闘いを挑む追い風」であったり、時には「組合員からの声なき声」と捉えます。

いかなる風が吹こうとも必ず元に戻り、いかなる風であろうともきれいなやさしい音色で受け止めます。そんな組織あるいはそんな組織人でありたいと思うところです。

私たちは、「汲んでも汲んでも尽きることのない泉のような温かい心」のある組織労働者として、「自分さえよければ」という価値観から「助け合い、支え合い、お互い様」という人間が持つ本質的な価値観を回復させていく取り組みを進め、「働く人々が手をつなぎ合って生きていく」ことのすばらしさの実現に向けて進んでいきたいと思えます。

(2020年2月28日)

